

JA 南るもい花き生産組合におじゃましました

ここ留萌地域は北海道の北西部にあり、日本海に面しています。海産物がおいしい地域として知られていますが、水稲や小麦、果樹など農産物も種類が豊富です。今回は、そんな留萌にある JA 南るもい花き生産組合に取材に伺いました。

□JA 南るもい花き生産組合

JA 南るもい花き生産組合は、留萌市と小平町の生産者で構成し、組合員数 15 戸という小規模の生産者組合です。平成 2 年に小平町を生産者を中心に花き研究会が立ち上がり、2 戸の留萌市内の花き農家も参加して、3 年後の平成 5 年に生産組合となりました。小規模ですが、夏が涼しい留萌の気候を利用して、規格のそろった高品質の花きを育て、道内外の市場から高く評価されています。主力の品目は、トルコギキョウ、スターチスなどです。小さな組合だからこそ、高い技術を保ち、他の産地とは異なる珍しい品種などにも挑戦しています。

□中原組合長の農園

今回は、組合長である中原耕治さんのお宅を訪ねました。4 月のはじめ、まだまだ雪が多く残る冬の景色の中で、中原さんのハウスの中には小さな苗が芽吹いていました。出荷は 7 月の下旬～10 月頃まで行い、本州の暑い時期でも花きを生産できるのが北海道の生産農家の強み。雪のなかでも、出荷の時期にあわせてすでに栽培は始まっているのですね！



ハウスの中で整然と並ぶトルコギキョウの苗



まだまだ雪が残るハウス（4月初旬）

□高品質を保つために

JA 南るもいでは、立毛コンテストを実施しています。審査員がハウスを回って評価する方法は、包み隠さず生産者を評価します。出荷が始まる 7 月中旬に実施。そんな努力が高品質の花き生産を支えています。また、花きの生産は細やかで繊細な女性の力も欠かせないとか。奥さまの力も大きいそうです。



立毛コンテストの様子

□新規就農者募集！

JA 南るもい花き生産組合では、平成 21 年に約 40 ページにもおよぶ、留萌での花の生産マニュアルを作りました。現組合員のためだけではなく、この留萌の地で新規就農をする人がすこしでも花の生産をやりやすくするために。留萌地域では、新規就農者を募集しています！

□取材をおえて・・・

組合長中原さんは、取材のなかで、このレポートには書ききれない花のお話を丁寧に答えてくださいました。

お話の中で「常に一年生」という言葉が印象的でした。農業ですが、美的センスを求められる花の生産。花には流行もあり、毎年ニーズをつかんで、栽培する品種を決めるとのこと。そのための情報収集も欠かさないとか。しかし、その一方で、毎回初めての花を作ることになるため、失敗もつきものとか・・・。農業歴 45 年の大ベテランの中原さんの口から「常に一年生」という言葉がでてくることに、花の生産の奥深さを感じました。



トルコギキョウの花

(平成 24 年 4 月 留萌振興局農務課)